

障害学生支援の現状と課題

【話題提供者】

日上耕司（大阪人間科学大学）

「企画主旨および大阪人間科学大学における障害学生支援の現状と課題」

井手沙織（大阪大谷大学）

「小規模私立大学における障害学生支援の現状と課題 ―専門職を配置した大阪大谷大学の取り組みから」

望月直人（大阪大学）

「大阪大学におけるサステイナブルな障害学生支援体制構築に向けての現状と課題」

村田 淳（京都大学）

「障害学生支援に関する全国的な動向 ―京都大学 DRC/HEAP の実践をふまえて」

【司会】

平野哲司（大阪人間科学大学）

【企画主旨】

2013（平成25）年制定、2016（平成28）年施行の障害者差別解消法によって、障害のある人々に対する「不当な差別的対応」が禁止され、また「合理的配慮」を提供することが定められました。前者は全ての公的機関や事業者の義務、後者は民間事業者においては努力義務とされました。さらに、2021（令和3）年制定、本2024（令和6）年施行の改正障害者差別解消法では、私立大学を含む民間事業者においても合理的配慮の提供が義務化されました。これに伴い、全国の私立大学においても、本年4月より義務として合理的配慮の提供を実施することとなりましたが、人的資源や経済的資源が比較的不安定と考えられる私立大学においてはさまざまな課題があることとされます。

本シンポジウムでは、企画者以外に、大学において障害学生支援を担当する教員を私立大学から1名、私立大学に先んじて義務としての合理的配慮提供を実施している国立大学から2名の話題提供者をお招きし、障害学生支援の現状を知り、今後の課題について広く議論したいと考えています。